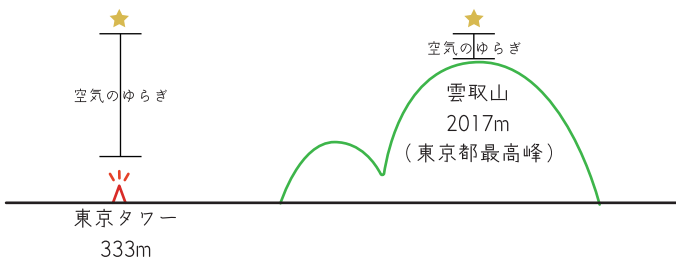


⇒ 星が綺麗に見える条件 ⇐

1. 町の灯りが少ない

2. 空気が澄んでいる

気温が低く、標高が高いほど空気が澄んでいます。標高が1000m上がると1割気圧が下がるので、空気のゆらぎが少なくなり、星が綺麗に見えます。



東京タワーと雲取山は標高差1684mなので、約1.6割程度空気の揺らぎが少ない計算に。標高が高く、町の灯りが少ない奥多摩では、星が綺麗に見えます。

⇒ 奥多摩の星は、本当に綺麗? ⇐

奥多摩は都心では見えない暗い星も綺麗に見られます。プレアデス星団(すばる)で見比べてみましょう。



南の空(右図参考)に、うすぼんやり見える星の集まり。

「あの」自動車メーカーのエンブレムも、同じ形?



視力にも大きく左右されますが、プレアデス星団は肉眼で5-7個の星の集まりに見えます。多くのプレアデス星団が見えるということは、空気の澄んでいる証拠です。

⇒ 冬の星空 ⇐

実際の空で星を見る時、明るい星や目立つ星座が道しるべになります。

1つ道しるべが分かれば、その隣、そのまた隣へと見つかる星座が増えて行くでしょう。

下図は、1月15日20:00頃の奥多摩から見た星空の様子です。

目印におススメの星座や星を厳選してご紹介。まずはこの4つの星座を、実際の夜空で探してみてください。

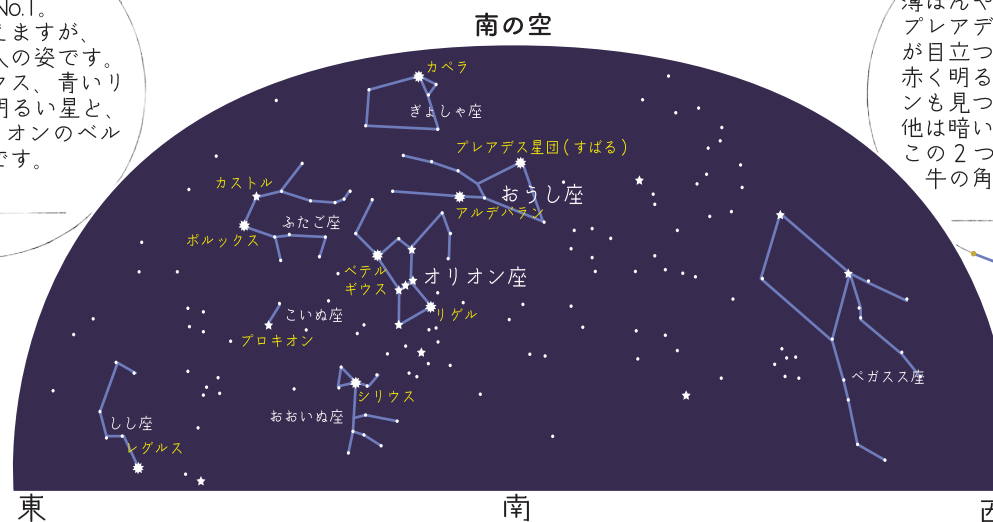
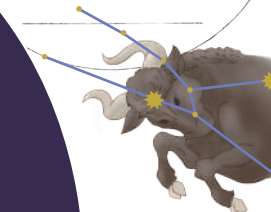
①オリオン座

見つけやすさNo.1。砂時計にも見えますが、ギリシャの狩人の姿です。赤いベテルギウス、青いリゲルの2つの明るい星と、3つ並んだオリオンのベルトがシンボルです。



②おうし座

薄ぼんやりとした星の集団プレアデス星団(すばる)が目立つ。周囲を探すと、赤く明るい星、アルデバランも見つかります。他は暗い星の集まりですが、この2つの星から大きな雄牛の角が描けます。



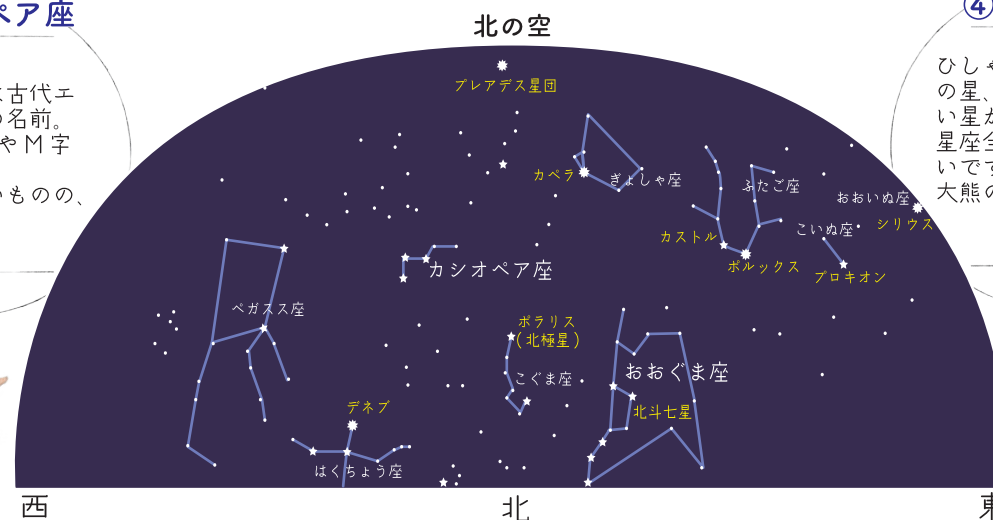
③カシオペア座

カシオペアとは古代エチオピア女王の名前。日によりW字やM字に見えます。明るい星はないものの、覚えやすい形。



④おおぐま座

ひしゃく型をした7つの星、北斗七星は明るい星が多く探しやすい。星座全体は見つけにくいですが、北斗七星が大熊の背にあたります。



奥多摩おススメ星見スポット



奥多摩湖

無料駐車場が近くにあり、アクセス良好。湖周辺は道が整備されているため、気軽に星見が楽しめるおススメスポットです。



登記トレイル

奥多摩駅から徒歩 20 分程度の散策路。途中の展望広場は北面が開け、背もたれに傾斜のベンチがあります。座って眺めると、プラネタリウムみたい！でも、氷川の町灯りが近く、暗い星は見えづらいかも。



雲取山荘※

東京都の最高峰、雲取山周辺にある山荘。標高が高く、国立公園の特別保護地区であるため、空気や灯りの影響を受けにくい絶景ポイント！夜の山歩きは危険なため、宿泊を伴う本格的な登山が必要です。苦労した分、素晴らしい星空が待っています。

※雲取山へは、スタミナ、装備、登山計画等、本格的な登山が必要です。易しい山でたくさん経験を積み、いつかチャレンジしてみてください！

星を見る時の注意

1. 足元注意

舗装されていない場所は昼の内に下見を。また、山道は暗い時間には歩かず、明るい時間に移動しましょう。

2. 夜の世界

夜の奥多摩はクマなどの野生動物の世界。食べ物などを野外に放置しない、クマスプレーを持参する等の対策を。

3. 近隣へご配慮を

周囲に人が住んでいる場所もあります。静かに観察しましょう。

奥多摩の星と山のお仕事

奥多摩では、かつて、山の中に窯を構え、作業のほとんどを山内で行う炭焼きが盛んでした。

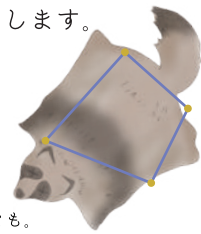
昔は時計も普及しておらず、山で時を知る術に星を頼っていました。炭焼きの仕事で道しるべとされていた星をご紹介します。



棒ノ折山の炭焼き窯跡

行ってらっしゃいの星 カーハリボシ

一般的にいう、からす座です。暗い星座ながら、四角形を描く分かりやすい並びです。奥多摩では動物の毛皮を張った姿と見て、皮張り(カーハリ)星と呼びました。冬の空では、明け方に山から顔を出します。カーハリボシが登るのを待ち、見送られるように、山へ炭焼きに出かけました。



別の呼び方で、むじな(奥多摩ではタヌキのこと)のカーハリとも。

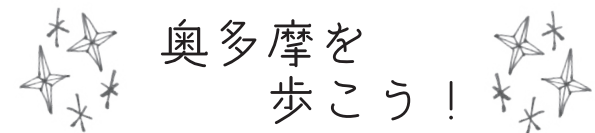
おかえりなさいの星 アシアライボシ

『冬の星空』でも紹介したオリオン座は、秋から冬の時期、山から家に帰って足を洗う時間になると、東の山から登ってきます。このことから、奥多摩ではオリオン座の3つ並んだ星を、足洗い(アシアライ)星と呼びました。アシアライボシが見えたら、今日の炭焼は終わり。明日、カーハリボシが登るまで、休息の時間です。

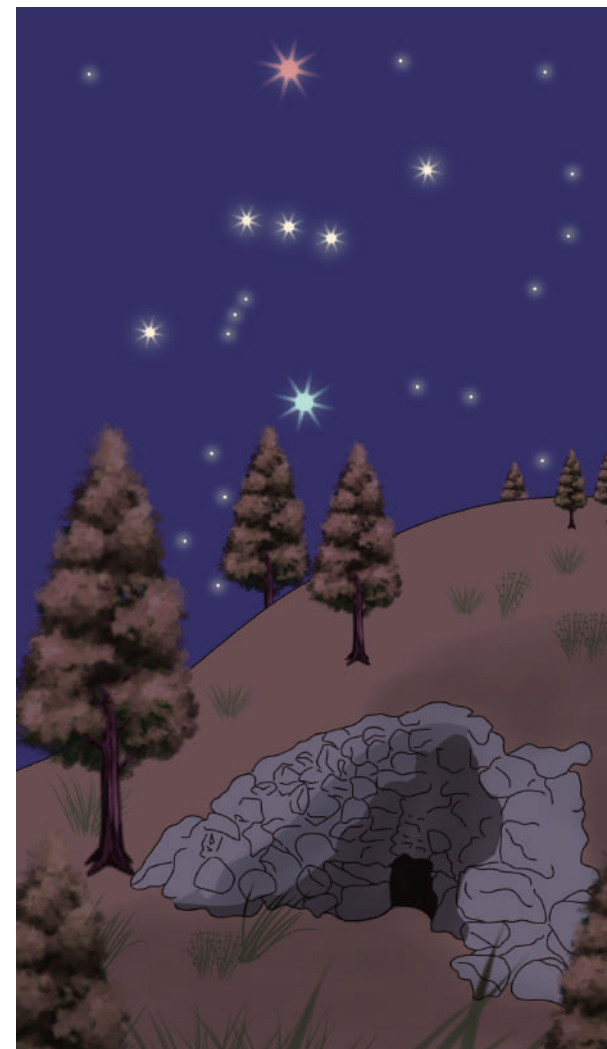
炭焼きは、山の仕事でも特に重労働と言われていました。出発も帰宅も、星に見守られる時間であることを考えると、大変だったのだと思えますね。

出展：多摩のあゆみ 第36号

第135号 奥多摩ビジターセンターセルフガイド



4つの道しるべで巡る 奥多摩 冬の星空散策



奥多摩ビジターセンター

〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 171-1

TEL : 0428-83-2037 URL : <https://www.ces-net.jp/okutamavc/>

指定管理者：(株)自然教育研究センター(略称CES)